



デジタル機器の活用に向けて ソフトバンク株式会社と連携協定締結

市では、スマートフォンなどのデジタル機器の活用をさらに促進し、市民の誰もがデジタル化の利便性を実感できる社会の実現を目指して、ソフトバンク株式会社との連携協定を締結しました。

本協定は、ソフトバンク株式会社が社会貢献の一環として、市内でのスマホ教室開催を提案されたことをきっかけに実現したものです。



協定を締結した大和田隆介統括部長（右）と守本市長（9月24日、南あわじ市役所）

スマホ教室の今後の日程などは、市ホームページからもご覧いただけます。



10月から市内4カ所の商業施設で、無料のスマホ教室を開催しており、一部の施設では「スマサボ号」を活用し、スマホの使い方やトラブルへの対応など、さまざまな悩みの解決をサポートしています。



スマホ相談 11月の予定 実施時間 10:00～16:00 ※予約不要・参加無料・先着順	ウエルシア広田店	シーパ	美菜恋来屋	イオン
	5日（木）	12日（木）	19日（木）	26日（木）

資質と美を競う 南あわじ市畜産共進会を開催

第22回南あわじ市畜産共進会を10月3日に、南あわじ市文化体育館大駐車場で開催しました。和牛の部・乳牛の部を同日開催し、黒毛和種53頭、ホルスタイン種11頭が月齢別に資質と体形美を競い合ったほか、農業功労者の表彰が行われました。



和牛の部で名誉賞を受賞した仲岡さんと「まさこ7」

共進会入賞者一覧（敬称略）

◆和牛の部

名誉賞＝まさこ7（仲岡建太郎・市）

最優秀賞＝あゆみ（山野富靖・倭文）、てるゆい（前山修治・北阿万）、こはくこ（彦坂和宏・倭文）、ひかる（坂部充宥・阿万）、いつき（山田光雄・志知）、みやふじ（杉本勝司・倭文）

◆乳牛の部

名誉賞＝【未經産】フェアヘイブン JACOBS サラダブリタニー（高田茜・八木）

【経産】アバンギャルド ハズイット パリス（出口順也・志知）

優秀賞＝【未經産】クララ ジェリールイス スターバツク（高田茜・八木）

【経産】アバンギャルド ハズイット ライカ（出口順也・志知）

◆令和8年度農業功労者表彰（敬称略）

和牛の部＝原博文（広田）、坂本泰利（福良）

乳牛の部＝沼田浩一（神代）

蔬菜の部＝谷口崇（広田）、伊木睦侑（松帆）

今月の表紙

今月の表紙は、10月7日に三原健康広場で開催された第22回南あわじ市陸上競技大会です。関連記事、大会結果（各競技1位を掲載）は29ページをご覧ください。



今月の内容

P3	市政ひろば ・ソフトバンク株式会社と連携協定締結 ・第22回南あわじ市畜産共進会を開催
P4-6	特集 ・南あわじ市ケーブルテレビ「さんさんネット」
P7-19	お知らせ ・市役所開庁時間の変更について ・2027年南あわじ市二十歳のつどい
P20-23	情報瓦ばん 各種 募集、催し、相談ほか
P24-25	いきいき健康生活 ・健康カレンダー、休日応急診療所
P26-27	みんなの図書館、子育て広場
P28-31	まちかどトピックス ・南あわじ市小学生陸上競技大会を開催 ・南あわじ市子ども映画祭を開催 まちの動き
P32	南あわじ市総合防災訓練について 家庭で楽しむ学校給食

ふ れ あ い 市長室



南あわじ市長 守本 憲弘

「カスハラ」対策を考える
―より深く市民の皆さんと向き合う契機に―

最近、「カスタマーハラスメント」、いわゆる「カスハラ」という言葉をよく耳にするようになりました。著しい迷惑行為から働く人を守るため、10月1日から、自治体を含む事業主に必要な対策を講じることが義務付けられました。

南あわじ市でもこれを受け、暴言や脅迫、長時間にわたって職員を拘束する行為など、社会通念上許される範囲を超えた言動から職員を守るための規程を定めました。

しかし、私はこの制度が市民の皆さんと市役所の間に壁をつくるものになってはいけなと思っています。むしろ、これを一つの契機に、これまで以上にしっかりと話し合いができる市役所にしていきたいと考えています。

市役所には毎日、現行制度の課題やインフラの不具合の指摘など、さまざまなご意見やご相談が寄せられます。時には、職員の仕事上のミスの指摘も頂きます。

そのやり取りの中で、厳しい言葉をいただくこともあります。

大切なのは、厳しい言葉であっても表面だけで判断せず、その背景にある困りごとや改善の可能性に目を向けることです。もちろん、市役所にも法律や制度、予算や人員などの制約があり、すべてのご要望にお応えできるわけではありませんが、その理由をきちんと説明し、別の方法を一緒に考えることはできます。

一方で、職員が一步踏み込んだ対話をするためには、落ち着いて話を続けられる安心感も大切です。

私自身、かつて資源エネルギー庁で苦情対応を担当していたことがあります。相手から威圧されたり、人格を否定するような言葉を投げかけられると、どうしても「できるだけ早くこの対話を終えたい」という気持ちになることがありました。

カスハラ対策を実際に適用するのは極めて例外的な場面だと思いますが、その最後の砦があることで、職員が必要以上に萎縮せず、積極的に皆さんのお話を伺い、その背景にまで踏み込んでいける。私は、この制度にそんな役割も持たせたいと考えており、職員にもそのようなメッセージを伝えています。

市民の皆さんの声を大切に、職員も安心して仕事ができる環境を作ること。その両方があってこそ、より深い対話ができます。

これからも一人ひとりの声に丁寧に向き合い、お互いに率直に話し合える信頼感のある市役所を目指していきたいと思っています。